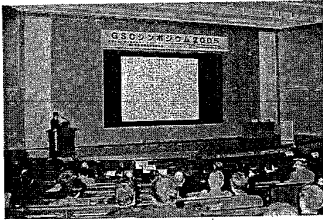


GSC グリーン・サステイナブル ケミストリー 第6回シンポジウム開催

化学技術で「持続可能な社会」実現



昨年開かれた第5回シンポジウムには産学官から400人を超える参加者があった

GSC ネットワーク主催
3月7日-8日 東京・学術総合センター 一橋記念講堂で

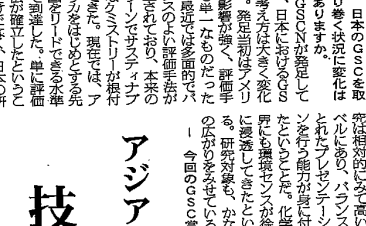
産学官一堂に会す
わが国におけるグリーン・サステイナブル・ケミストリー(GSC)活動のさらなる推進することを目的に、第6回GSCシンポジウムが、7日、8日の二日間、東京新千代田区の学術総合センター一橋記念講堂で開催される。GSC活動を実践する産学官の関係者が一堂に会し、最新情報の報告を行うとともに今後の展望を討議するもの。主催は、日本化学工業協会、日本化学会、産業技術総合研究所など産学官化学系二十四団体で構成するGSCネットワーク(GSCN)。会長・内ヶ崎功日立化成工業会長、経済産業省、文部科学省、環境省など七十の機関、団体が後援する。

GSCNは「化学にかかわるものは自らの社会的責任を自覚し、化学技術の革新を通して、人と環境の健康・安全を旨とする活動の推進・普及をはかり、持続可能な社会の実現に貢献する」とを基本理念として活動を進めてきた。二〇〇二年度は、世界のGSC推進会議を日本主導で実現、内外から高い評価を得た。この国際会議は米欧に引き継がれ、第二回会議は昨年六月に米国ワシントンで開催、さらに第三回は来年三月にランダ・デルフトでの開催が決まるなど、発展の一途をたどっている。一方、アジア地域のGSCネットワーク構築をターゲットとした活動も現実のものとなり、来年三月に第一回GSCアジア・オセアニア会議の開催が決まっている。

今回のシンポジウムでは、小宮山宏東京大学総長、北野大淑徳大教授、村井眞一日本化学会前会長らの基調講演をはじめとする招待講演十二件、ポスター発表四百二十二件が予定され、第五回GSC賞受賞者の表彰式も行われる。

GSC活動の中で、今後も日本が継続して国際的な役割を果たしていくためには、国内の産業界、学界のGSC活動をいっそう活性化させることが重要なテーマになる。今回のシンポジウムが日本のGSC活動のさらなる飛躍の場となることが期待される。

日	時間	分	項目	演題	講演者	産学
3月7日	9:30-10:30	60	登録手続き			
	10:30-10:45	15	GSCN会長挨拶	開会宣言	内ヶ崎 功 GSCN・JCI会長	松方 正彦 豊田大学 GSCN会長 村井 眞一 日本化学会 会長 名取 昌隆 名古屋大学 産学官学協会 会長
	10:45-11:25	40	セッション1 <基調講演>	【課題先進国】日本とGSC Green and Sustainable Chemistry at the 300-30 in Australia: Current Status and Opportunities for the Future The Partnership of R&D Groups and Industries in Promoting Green Chemistry and Chemical Process in Taiwan	小宮山 宏 東京大学総長 M. T. W. Hearns Monash大学教授 J.-S. Yang 台湾工業技術研究院	
	11:25-12:05	40				
	12:05-12:45	40				
	12:45-13:45	60	昼 食			
	13:45-14:14	30	セッション2 <産学者のビジョン及び企業におけるGSCの実践>	化学と持続可能な発展	河内 哲 住友化学副社長 今城 真 住友化学 GSCN副委員長	
	14:15-14:45	30	セッション3 <経済産業省の技術開発施策-GSCの視点から>	ライオサイクルでのグリーン化を目指して	江村 祐輔 キヤノン常務取締役 経済産業省製造産業局 機能性化学品部長 坂田 欣也 産業技術総合研究所 バイオマス研究センター長	堀川 幸一 上野大学 GSCN顧問
	15:15-15:45	30	セッション4 <産学官GSC賞受賞講演>	人工ゴッド様による複合材料の自動合成法	西村 紳一郎 北海道大学 産学技術総合研究所 産学工学研究センター 研究チーム長 丸岡 啓二 京都大学教授 藤川 真彦 コスモ石炭中央研究所 炭素材料グループ長 前日本石油中央技術研究所 炭素材料研究部長	金五 正弘 住友化学技術センター GSCN委員
	15:45-16:05	20	休憩			
16:05-16:35	30	セッション5 <GSCの最先端>	元素戦略とグリーン&サステイナブルケミストリー ユニークな微生物機能の探索・開発と「ものづくり」への利用 Materials Synthesis using Supercritical Fluid Solvents	中村 栄一 東京大学教授 清水 昌 京都大学教授 Allcooper Liverpool大学教授	藤崎 昭 科学技術庁カガミ一理事長 日本化学会18年度会長 松方 正彦 豊田大学 GSCN委員	
16:35-17:05	30					
17:05-17:40	35					
18:00-18:30	30	懇親会				
18:30-20:30	120	ポスター発表				
9:30-10:30	60	登録手続き				
10:30-11:00	30	セッション5 <GSCの最先端>	元素戦略とグリーン&サステイナブルケミストリー ユニークな微生物機能の探索・開発と「ものづくり」への利用 Materials Synthesis using Supercritical Fluid Solvents	中村 栄一 東京大学教授 清水 昌 京都大学教授 Allcooper Liverpool大学教授	藤崎 昭 科学技術庁カガミ一理事長 日本化学会18年度会長 松方 正彦 豊田大学 GSCN委員	
11:00-11:30	30					
11:30-12:10	40					
12:10-13:15	75	昼 食				
13:15-15:15	120	ポスター発表				
15:15-15:30	15	休憩				
15:30-16:10	40	セッション6 <産調講演>	どのような働きを求めるべきか? <産調講演>	北野 大 産調大学教授	安井 至 産調大学 GSCN委員	
16:10-16:50	40					
16:50-17:00	10	ポスター発表				
17:00-17:05	5	閉 会				



安井 至 委員長に聞く
(国連大学副学長)

「GSCNの取組、特に国内での展開は、日本に限定しては、むしろ海外に展開する方が有利である」と話す。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。

「GSCNの取組、特に国内での展開は、日本に限定しては、むしろ海外に展開する方が有利である」と話す。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。

「GSCNの取組、特に国内での展開は、日本に限定しては、むしろ海外に展開する方が有利である」と話す。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。

「GSCNの取組、特に国内での展開は、日本に限定しては、むしろ海外に展開する方が有利である」と話す。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。

「GSCNの取組、特に国内での展開は、日本に限定しては、むしろ海外に展開する方が有利である」と話す。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。GSCNの取組は、国内でも展開しているが、海外展開は、むしろ有利である。